自然派宣言

CHALLENGE

発　行
2022年3月9日

徳島県議会議員
庄野　昌彦

庄野まさひこ 県政レポート No.36

2021.12.21 試乗してきました

DMV（デュアル・モード・ビークル）が昨年の12月25日運行開始しました。阿佐海岸鉄道を列車として走り、道路も車として走ります。本格運行は世界初という快挙です。DMVは、徳島県海陽町と高知県東洋町をつなぐ区間を運行し、さらに、土日祝日は、室戸方面に１日１往復運行しています。観光資源と結びついた地域の活性化や災害時の移動力も期待されてます。

共生・共助の社会をめざして

徳島県議会議員　庄野（しょうの）　昌彦（まさひこ）

２０２２年の春になりました。コロナウイルス感染症のオミクロン株が猛威をふるい、第６波感染者数は、過去最高を記録しています。この変異株は感染拡大のスピードが速いうえに、10代、20代といった若い方の感染が拡大しており、学校や児童関連施設などでもクラスターが発生しています。医療や福祉、保健所、学校関係者など、最前線でご苦労されておられる方々に心から敬意と感謝を申し上げます。

マスク、消毒、３密の回避、３回目の早期ワクチン接種で感染拡大を何とか食い止め、収束につなげていかなければなりません。未曽有の危機に不安はありますが、落ち着きを持ってみんなで助け合っていこうではありませんか。

昨年はコロナの影響で行政視察もなかなか行けませんでしたが、落ち着きを見せていた年末に、世界初の運行となる、阿佐海岸鉄道に導入されるＤＭＶ（デュアル・モード・ビークル）の試乗、水素バスへの試乗、北海道長沼町で取り組まれている「タンチョウも住めるまちづくり」を視察させていただくなど大きな成果もありました。

私は、これからも、人を大切にする政治、自然に向き合い、生態系を守る活動を大事にし、共に助け合い、共に生きていく、やさしい社会をめざして、皆様方と共に頑張っていく決意を申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

自宅　〒770-8024
徳島市西須賀町東開60−19
☎ 088-669-5403 Fax 088-669-5408
HP　http://shonom.jp
mail　info@shonom.jp

1日も早い新型コロナウイルス感染症の収束を！

県議会の状況

会　派「新風とくしま」

［所属委員会］

・文教厚生委員会

・地方創生対策特別委員会

これからも、頑張ります。
皆さまのご意見
お聞かせください。

代表質問

〔2022年6月24日、会派「新風とくしま」を代表して〕

以下、要旨を述べさせていただきます。

なお、全文は私のホームページ（http://shonomi.jp）に掲載しています。

（メール等で、皆様方のご意見をお聞かせいただければありがたいです。）

❶グリーン社会実現に向けた取組について

質問「庄野」

徳島県ではこれまで、自然エネルギーや水素エネルギーの積極的な導入をはじめ、グリーン社会の実現に向けた取組を積極的に進めてきました。今議会知事の所信表明では、県版脱炭素ロードマップ策定について言及されておりますが、グリーン社会実現に向け、県として今後どのように取り組んでいくのか、お伺いします。

答弁「飯泉知事」

地方の脱炭素化をさらに加速させるため、全国初となる地産エネルギー副生水素活用による、水素ステーションや燃料電池バス運営開始を核とした水素サプライチェーンの構築、南海トラフ巨大地震をはじめ事前復興にもつながる、地域と共生した自立分散型電力システムの確立、市場連動型の新たな売電[illegible]

徳島木のおもちゃ美術館
（棚田をイメージ）
（2021年9月25日）

徳島木のおもちゃ美術館
（そろばんをイメージ）
（2021年9月25日）

消費と販路の拡大支援を両輪として、積極的な取組を行ってまいります。

さらに、エシカル農業の意義と生産者の横顔をより分かりやすくお伝えするため、この秋を目途に、環境負荷軽減に取り組む生産者の方々を新たに認定する徳島県エシカルファーマー制度を創設し、令和7年度には、エシカル農業の取組面積を2250ヘクタールとし、本県の経営耕地面積の約14％まで拡大していきたいと考えています。

今後とも、生産者はもとより、流通・小売業、消費団体等の皆様方と連携を密にし、エシカル農業、さらには有機農業の拡大にしっかりと取り組んでまいります。

❸新型コロナワクチン接種の促進について

質問「庄野」

コロナの感染拡大が続き、なかなか収束が見えない中、医療関係者をはじめ、関係する全ての皆様方に心から敬意と感謝を申し上げます。また、療養中の方々の回復を心から願っております。

ワクチン職域接種については、市町村において接種券が発行されていない方が多数接種を受けることになると考えますが、接種券がない場合、名簿の管理が必要であるほか、接種券が届くまでは費用の請求ができないなど、事務の負担が大きいと聞いております。接種を効率よく進めるためには、市町村において、できるだけ早く接種券を発行していただく必要があると考えますが、接種券の早期発行について、県として市町村とどのような形で取り組んでいくのか、御所見をお伺いいたします。

答弁「福井副知事」

職域接種を行う主体からは、実施に当たっての課題として、被接種者に接種券が発行されておらず、接種に係る費用の請求手続が行えない、接種券が届くまでの間、大量の予診票を保管する必要があり、事務負担が大きいなどの声が寄せられ、接種券の早期発行が強く求められております。

県といたしましては、各市町村の実情を丁寧にお伺いしつつ、市町村に対して改めて接種券の早期発行を促してまいります。

庄野まさひこの 行・動・日・誌

2021年

2月	10日	2月定例県議会開会
	13日	関西広域連合全員協議会（大阪市）
	17日	代表質問
	18日、19日	一般質問
	23日	徳島中央警察署落成式
	24日、25日	経済委員会
	27日	関西広域連合定例会（大阪市）
3月	3日	次世代育成・少子高齢化対策特別委員会
	9日	議会運営委員会
	10日	2月定例県議会閉会
	21日	南部自動車道開通式
4月	2日	しらさぎ中学校内覧
5月	1日	メーデー
	19日	文教厚生委員会
	20日	県議会臨時本会議
	27日	徳島県獣医師会総会
6月	16日	文教厚生委員会（事前）
	17日	地方創生対策特別委員会（事前）
	21日	6月定例県議会開会
	24日	代表質問（会派を代表して登壇）
	25日	一般質問
7月	1日、2日	文教厚生委員会
	5日	地方創生対策特別委員会
	9日	6月定例県議会閉会
9月	3日	議会運営委員会
	6日	文教厚生委員会（事前）
	8日	地方創生対策特別委員会（事前）

「共に生きる・ノーマライゼーション」を推進しよう。

テムの確立、市場連動型の新たな売電制度でありますFIPを視野に入れました自然エネルギーを活用した脱炭素型まちづくりなど、官民一体となった施策を強力に推進していきます。

さらに、エネルギー分野のみならず、プラスチック資源のリサイクルをはじめ、3Rの促進や食品ロス削減による循環経済への移行、環境に優しい地域資源を活用した持続可能な農林水産業の推進など、脱炭素の基盤となる重点施策を盛り込んだ、2030年度までの行程と具体策を示す県版脱炭素ロードマップを、本年12月をめどに策定し、経済と環境の好循環を生み出す取組を積極果敢に進め、脱炭素による強靱な活力あるグリーン社会徳島の実現に向け、全力を傾注いたしてまいります。

徳島木のおもちゃ美術館
（遊山箱イメージ・
板野町あすたむランド）
（2021年9月25日）

❷有機農業の推進について

質問「庄野」

有機農業の取組面積については、国内における有機農産物の消費拡大とともに徐々に拡大してきていますが、取扱いは限定的で、契約栽培や宅配型通販などでの流通が大部分であると聞いております。しかし、少しずつみんなが問題意識を持って前向きに取り組んでいけば、道は開けてくると思います。有機農業の拡大には、生産技術の問題解決も重要でありますが、農業関係団体のみならず、流通、消費に係る関係機関との連携も重要であり、また農産物を購入していただく消費者にご理解をいただくことも重要です。

本県の取組として、全国の消費者に、徳島県の農産物は環境に優しく安全・安心で高品質というイメージを発信することが非常に重要であると考えていますが、エシカル消費先進県として、有機農業の拡大に今後どのように取り組んでいくのかお伺いいたします。

答弁「森口農林水産部長」

エシカル農業をさらに推進するため、本年3月に策定した徳島県エシカル農業推進計画に基づき、生産技術の支援及びしてまいります。

今後とも、実施主体である市町村に対し、必要な支援を行うとともに、ワクチン接種の加速化に効果的な職域接種を推進することにより、希望される県民の皆様が一日でも早くワクチン接種を受けることができるよう、しっかりと取り組んでまいります。

❹学校における働き方改革について

質問「庄野」

教員の業務負担の軽減を図るため、学校における働き方改革にどのように取り組んでいくのか、御所見をお伺いいたします。

答弁「榊教育長」

令和三年度から全ての公立小中学校に導入した出退勤管理システムを含むグループウエアの活用によるタイムマネジメントの徹底、県下統一した統合型校務支援システムの導入により、成績処理や出欠管理、通知表の作成など、手書き、手作業の多い教員の校務の効率化を図る業務改善の一層の推進、学びサポーター、スクール・サポート・スタッフ、部活動指導員といった外部人材の活用拡充など、教員の負担軽減を一層推進してまいります。

また、教員が一人でストレスを抱え込まないよう、風通しのよい職場環境づくりの推進や、精神科医や臨床心理士等による教職員相談事業について広く利用していただけるよう、メンタルヘルス研修時やホームページなどにより改めて周知に取り組むとともに、病気休職になった場合でも、その円滑な職場復帰を図るため、臨床心理士によるきめ細かな相談体制を構築するなど、教員の心のケアにしっかりと取り組んでまいります。

他にも、
- オリンピック・パラリンピックの事前キャンプについて
- 高病原性鳥インフルエンザ対策について
- 県消費者情報センターの更なる進化について
- ワーケーションの展開について
- 農林水産業の担い手確保について
- 認知症の方の社会参加の推進について、等も質問しています。

8日　地方創生対策特別委員会（事前）
10日　9月定例県議会開会
16日　代表質問
17日　一般質問
24日、27日　文教厚生委員会
28日　地方創生対策特別委員会

10月
1日　9月定例県議会閉会
4日　県議会臨時本会議
7日、8日、12日、普通会計決算認定特別委員会

11月
16日～18日　会派研修（夕張郡長沼町他）
22日　文教厚生委員会（事前）
24日　地方創生対策特別委員会（事前）
26日　11月県議会開会

12月
1日　代表質問
2日　一般質問
8日、9日　文教厚生委員会
10日　地方創生対策特別委員会
16日　11月定例県議会閉会
21日　DMV試乗会（阿佐海岸鉄道）

2022年

1月
6日　連合徳島旗開き
16日　脱炭素化フォーラム
17日　高校生と県議会議員の意見交換会（阿波高校）

2月
4日　議会運営委員会
7日　文教厚生委員会（事前）
8日　地方創生対策特別委員会（事前）
10日　2月定例県議会開会
16日　代表・一般質問
17日、18日　一般質問
25日、28日　文教厚生委員会

3月
1日　地方創生対策特別委員会
9日　2月定例県議会閉会

会派調査研究「新風とくしま」活動

２０２１年11月、コロナがおさまっている時期にようやく、会派活動として、北海道長沼町の「タンチョウを呼び戻す会」との交流を再開することができました。

長沼町は、国土交通省が舞鶴遊水地を軸とした「タンチョウも住めるまちづくり」を打ち出し、地域住民も土地を提供し、広大な遊水地（２００ha）をつくり、タンチョウを呼び戻す取り組みを官民一体となって取り組んだ結果、昨年やっとヒナが誕生したそうです。

タンチョウを呼び戻すことをめざし、２０１９年11月30日に長沼町から「呼び戻す会」の皆様が、鳴門市のコウノトリ保護の取り組みを視察に来られた時に私たちとの交流がはじまりました。コロナの影響で、なかなか、長沼町訪問がかないませんでしたが、昨年ようやく長沼町を訪問し、町長さんや、呼び戻す会の皆様方と舞鶴遊水地を視察させていただき、なんと、タンチョウ９羽にも会うことができました。千歳川放水路計画を撤回し、遊水地をつくることにより、洪水から地域を守るという取り組みが、多くの水鳥でにぎわうサンクチュアリになったことは、行政と住民が協力して出来上がったものと大変うれしく思っています。

鳴門市のコウノトリも「コウノトリ基金」の皆様方をはじめ、多くの方々の善意で飛来する羽数も多くなってきています。今は、１カップルだけの営巣ですが、２カップル、３カップルとなっていけばいいと考えています。結びにあたり、長沼町との交流を橋渡しいただいた「日本生態系協会」の方々に深謝いたします。

2021年11月17日　舞鶴遊水地にて
この日は９羽のタンチョウが観測されました。
※写真撮影時のみマスクを外しています。

舞鶴遊水地

呼び戻す会の皆様と

タンチョウ見えました

呼び戻す会

タンチョウの大きさ

テロも戦争も貧困もない平和な地球の創造を!